



たかがみねこども園

高く澄んだ青空や心地よい風が吹く季節となりました。

今月は戸外遊びやお散歩に出かけ、秋の自然をたくさん感じ、この時期ならではの芋ほりやどんぐり拾いなどの体験をしたいと思っています。子どもたちにとって、心と体が大きく育つ「実りの秋」になるといいですね。



～ 10月の目標 ～

- お散歩へ行き、どんぐりなどの木の实や色づいた葉っぱを拾い楽しむことで秋への季節の移り変わりを感じ、感性を豊かにする。
- お散歩や園外保育に行ったときには、すれ違う人にも自らすすんで挨拶をする。

やると見るとは大違い

「やると見るとは大違い」という言葉がありますが、100回説明されたり、見本を示されたりしても、実際にやってみないとわからないことがたくさんあるという意味です。

運動会で子どもたちが披露した器械体操。いくら先生が見本を見せたり、説明をしても、跳び箱での踏み切る強さや手をつくまでの空中での感覚も、鉄棒の逆上がりでの地面を蹴り、足を跳ね上げたり、鉄棒を体に引きつけるタイミングもわかりません。何度も練習を重ねるなかで、怖さを乗り越えたり、おしりを跳び箱にぶつかけたり、先生に体を支えて跳ばせてもらったりしながら、跳べた時の感触を体全体の感覚として理解します。また、鉄棒も何度も何度も足を跳ね上げながら鉄棒に体が巻きつく瞬間の感覚を掴んでいきます。

「やってみる」こと、体験がいかに大切であるかということがわかります。まさに「見」よりも「験」です。

子どもたちが何かをしようとする時、「危ないからやめなさい」「〇〇は危ないから触ったらだめよ」と安全を最優先するあまり、大切な経験の場を取り上げてしまっていないでしょうか。大人が先回りをして危険が起きないようにすることよりも、安全に配慮しつつ、いろいろな経験や体験をさせながら、子ども自身が「危険なことは何なのか」「どうしたら危険を回避できるのか」などを考えさせたり、大人が教えてあげたりすることが大切です。そうすることで、子どもたちは次に同じことがあったとき、対応できる力を身につけることができるのではないのでしょうか。

